

〈競技上の注意事項〉

- 1 (財) 日本ソフトテニス連盟発行ソフトテニスハンドブックに準拠して競技を行う。
- 2 マッチはすべて7ゲームで行う。
- 3 【選手について】
 - (1) 病気やけが、その他理由により出場が困難であると校長が認めた場合は、ダブルスにおいては、ペアのうちの1人の選手変更を認める。ただし、シングルスでは、選手変更を認めず棄権とする。その場合は、事前に地区責任者を通じて専門委員長へ申し出ること。大会当日に上記理由が生じた場合は競技委員長へ申し出ることによって別途審議の対象とする。
- 4 【服装・用具について】
 - (1) 選手は、背中にB 5サイズのゼッケンの4隅を留めて付けること。
 - (2) 試合に使う用具、服装は日本ソフトテニス連盟公認メーカーのものを使用・着用すること。
 - (3) 長袖のアンダーウェア（単色）及びスパッツ、各部位を覆うサポーター、着圧ソックスの着用を認める。
- 5 【審判について】
 - (1) 参加選手は、審判ワッペンを持参すること。
 - (2) 正審は、ストップウォッチを用い、試合前の乱打・チェンジサイズ時の時間を管理し、スムーズに試合を進行させること。また、副審は得点表示を行うこと。
 - (3) ダブルスの審判は、敗者ペアが行うことを原則とする。
 - (4) シングルの審判は、直前の試合を終えた両選手が行うことを原則とする。ただし、勝者が試合（ベンチ入り待機）のために審判ができない3回戦以降の審判については、敗者とその学校の生徒1名で行うこと（参加人数の関係で無理な場合は本部に申し出ること）。
 - (5) 正審は、試合前の乱打・ベンチコーチ時の時間の管理に気をつけ、スムーズに試合を進行させること。
 - (6) 審判中に、対処が困難な事態が生じた場合は、審判委員の指示を仰ぐこと。
- 6 【ベンチについて】
 - (1) 組合せ番号の小さい選手が審判台を背にして左側とする。
 - (2) 次の試合の選手は、前の試合終了以前にベンチ入りしなければならない。審判が位置についてから、試合が開始出来ない場合には5分毎に警告を1つ与える。
 - (3) ベンチには、参加申込書に記されたベンチ入り指導者（教職員、外部指導者）のみが入ることができる。ベンチ入り指導者は、配布された指導者証を身につけること。
 - (4) ベンチ入り指導者は、試合の途中でベンチを離れた場合には同じベンチに戻ることはできない。また、試合の途中でベンチ入り指導者を交代することはできない。
 - (5) 選手はチェンジサイズ時とファイナルゲーム前に、自陣のベンチでのみ、ベンチ入り指導者からの助言を受けることができる。
 - (6) ベンチ入り指導者は運動できる服装とし、テニスシューズを着用すること。
- 7 【練習場所、施設について】
 - (1) コートにおける練習については、指示された場所・時間を守ること。
 - (2) ボールを使ったウォーミングアップは、ラグビー場かその他芝生のスペースで行うこと。
 - (3) プライベートテントを設置する場合はラグビー場、12面コート西側・南側、6面コート南側の林内を利用すること。
 - (4) 部旗や横断幕を張る場合は4・8・12コート西側か18コート東側のフェンスを利用すること。
- 8 【その他留意事項】
 - (1) 参加する学校ごとに必ずゴミ袋を用意し、ゴミは持ち帰ること。
 - (2) 日本ソフトテニス連盟が提唱しているグッドマナーを推進し、試合態度・施設利用のマナーの向上をお願いします。